

昭和59年度漁況海況予報事業 浅海定線調査結果 (陸奥湾) (要 約)

中谷 肇・尾坂 康・三津谷 正・高林 信雄・奈良八三郎^{*1}
浜田 勝雄^{*2}・横浜 昌夫^{*3}・本間 直吉^{*4}・長津 司・永峰 文洋
白取竹次郎・山本 正昭・吹越 弘光

この調査は、陸奥湾内における海況の特徴や永年変化などを把握して、湾内の漁業および増養殖業の健全な発展に資するため、海況予報に関する基礎資料を得ることを目的として実施したものであり、本年度は継続13年目の調査年度であった。調査結果の詳細については、別途、「昭和59年度漁況海況予報事業浅海定線調査結果報告書(陸奥湾)」(昭和60年3月)により報告済みである。

調 査 方 法

調査地点・回数：例年の6定点のほかにStn. A、Bを設け、任意選択して実施した。昭和59年中に計10回実施。

調 査 水 深：0、5、10、20、30、40mおよび底層。Stn. A、Bは若干異なる。

調 査 項 目：気象、透明度、水温、塩分、溶存酸素、クロロフィルa(4定点)、卵稚仔魚、動物プランクトン、植物プランクトン

結 果

本年の海況の特徴としては、1月から10月頃まで続いた低温傾向があげられる。水温は1月中旬頃から全般的に平年より低めの傾向を示し始め、4月上旬には平年より2～4℃低めとなった。7月に入り、表層水温は平年並みまで回復し、8月、9月には逆に平年より高めとなったものの、底層水温は依然として平年より低く、この傾向は10月まで続いた。

水温の最低値は、4月11日にStn. 6底層で観測された2.4℃で、最高値は8月8日Stn. 6、0m層の27.3℃であった。

底層溶存酸素量の最低値は、10月4日Stn. 3の2.64ml/ℓ(飽和度47.5%)であった。

クロロフィルaは、4月Stn. A、Stn. Bで高い値を示したが、8月、9月には全般的に低かった。最大値は4月10日Stn. B、底層の4.92mg/m³、最小値は4月11日Stn. 4、0m層の0.02mg/m³であった。

透明度は11～12月に高く、7月に低い傾向を示し、最高値は12月、Stn. Aの20m、最低値は4月のStn. A、5月のStn. 1、Stn. 2およびStn. Bの9mであった。

昭和59年の海況を月毎にまとめると次のようになる。なお、1972年～1983年の累年平均値を平年値とした。

昭和59年3月：水温は2.7～3.4℃で、平年値より1.6～3.1℃低め、塩分は33.4～33.5‰で平年値より0.3～0.4‰低めであった。

4月：水温は2.5～5.5℃で、全般的に平年値より2～4℃低い。塩分は32.8～33.7‰であった。

5月：水温は3.8～8.9℃で、前月より上昇したものの平年値より1.6～4.6℃低い。塩分は31.7～33.9‰で、前月からの低下が著しい。

6月：水温は4.6～14.3℃で、前月より上昇したが平年値より0.7～6.7℃低い。塩分は32.2～33.8‰。

7月：水温は6.8～19.1℃で、表層は平年並みとなったが、30m以深では平年より1.0～5.8℃低い。塩分は32.3～33.8‰で平年より低め。

8月：水温は11.0～27.3℃で、10m以浅では平年より1.5～4.1℃高いが、中層以深では逆に平年より0.9～5.2℃低い。塩分は32.5～33.9‰で、30m以深は平年より0.2～0.6‰低い。

9月：水温は13.6～23.4℃で、20m以浅は平年より0.02～0.6℃高いが、底層では平年より0.6～4.1℃低い。塩分は33.0～34.2‰で、西湾側から湾央部にかけて34%前後の高塩分水が分布。

10月：水温は18.0～21.0℃で、表層では前月より降温したものの、平年より0.6～1.8℃高い。底層ではStn. 1を除いて平年より2.3～5.2℃低い。塩分33.1～33.9‰。

11月：水温は14.4～16.9℃で、平年並み。塩分は33.4～33.9‰で平年並み。鉛直混合が進行して水温、塩分の鉛直差が小さい。

12月：水温は9.7～12.1℃で、前月に比べて4～5℃降温し、平年差-1.1～+1.1℃。塩分は33.6～34.1‰で、前月より0.1～0.3‰上昇して平年より0.3～0.4‰高い。

*1 現在 青森県水産物加工研究所
*2 現在 青森県水産課
*3 現在 青森県水産修練所
*4 現在 青森県水産課